◎特集

森を畑をシカから守れ 食害から10年

全国的にシカの食害が問題となっており、香美市でも森林や農林業に大きな被害が出ています。今回２回目となる特集として、市内における食害の現状と対策をお知らせします。

緑が失われ、崩壊するところも。筋のようなのはシカが通ってできた道です。

森のピンチを救って！

①2009年のカヤハゲ・韮生越付近

②2005年のカヤハゲ・韮生越付近

③崩壊の起きた白髪避難小屋下

シカの食害により破壊される自然

シカの食害による自然への影響は大きく、10年ほど前からその被害が顕著となり、現在では、日本二百名山のひとつである三嶺周辺（物部町）の植生は崩壊寸前となっています。三嶺・白髪山登山道のカヤハゲ・韮生越付近には、美しくササが繁茂していましたが、現在ではその面影は全く見られません。（写真①②）

ササ等が食害に遭うことで、根茎が枯れ、土を抑えることができなくなり、大雨が降った場合には、土砂流出・土壌侵食が起き、時には崩壊を起こしています。本来三嶺は大雨にも耐えられる森でしたが、昨年７月の豪雨の際には物部町内で100カ所以上の崩壊が起き、白髪避難小屋下でも大量の土砂が道路や谷に流れ込みました。（写真③）物部川濁水の要因の一つとなっており、海に流れ込んだ濁水が、沿岸の生態系に悪影響をもたらしています。

（上）樹齢200年以上の巨木や原生林が数多く点在する西熊さおりガ原は美しい原生林で、本来緑の空間がひらけていた。
（下）2007年以降はシカの食害により、毒草のバイケイソウのみが残っている。

④三嶺頂上付近のシカ

⑤表皮をはがれたユズの木

⑥ヒノキの樹皮はぎ被害

増えすぎたシカ

シカは平成５年頃から物部町を中心に増え始めました。現在では、土佐山田町の中心部を除く全域での生息が確認されています。

シカが増えた原因には、狩猟者が少なくなったということのほか、地球温暖化で、これまで深雪のため、食糧が得られずに、越冬できなかったシカがいなくなったことや、人間の作った栄養価の高い農作物を食べるようになり、出産するシカが増えたということも考えられています。

三嶺南面では50～100頭近いシカが目撃されており、まるでシカ牧場状態になっており、防護柵も一部が壊れ、シカは柵内にも入り込んでいます。（写真④）

農林業への被害

シカによる被害は農作物や樹木にも及び、市内の農林業関係者をはじめ多くの関係者を悩ませています。

平成24年度の被害報告面積は約１ヘクタール、被害報告額は約228万円です。報告されていない被害が多いため、実際の被害はこの何倍にもなると考えられます。

主な被害として、農業関係では水稲の踏み倒し・野菜への食害があります。また、物部町内の主要作物であるユズの木の皮をはぎ取り、写真⑤のような状態になると、２～３年後には木が枯れてしまい収穫ができません。

同様に、林業関係でも植林されているヒノキやスギなどの木の皮のはぎ取りや幼木への食害があります。（写真⑥）

シカは集団で行動し、１カ所を集中して食べるため、どの被害箇所においても壊滅的な被害となっています。